

教職課程 概要（新潟青陵大学大学院）

1. 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること

1. 取得可能な教員免許状

看護学研究科 養護教諭専修免許状

2. 教員養成の目標

看護学研究科では、大学の教育理念を踏襲した上で、教育研究における基盤として、「ケアの心」と「実践知」の2つをキーワードとして掲げ、既存の学部、研究科と連携した教育・研究・実践を行っています。

1. 高度な専門的な知識と技術をもった教育研究者の育成
2. 学際的かつ国際的な視点をもった指導者の育成
3. 人間性豊かな感性をもち、地域の健康支援に取り組む指導者の育成

看護学研究科の教職課程では、本学の教育目標を受けて、以下のような教員養成の目標を掲げています。

1. 医学・看護的な知識を持つ的確に対応できる能力の育成。
2. 保健・医療・福祉・心理・教育分野と連携して「ケアの心」を持ってチームアプローチができる人材の育成。
3. 高い資質と能力を備えた高度実践者及び研究者、指導者としての養護教諭の育成。

3. 履修カリキュラム

免許状の種類	免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目		
		授業科目	単位数	
			必修	選択
養護教諭専修 免許状	養護に関する科目	看護教育学	2	
		看護倫理	2	
		看護心理学		2
		看護研究法	2	
		ケアリング論	2	
		母子看護学特論Ⅰ		2
		母子看護学特論Ⅱ		2
		母子看護学特論Ⅲ		2
		母子看護学演習Ⅰ		2
		母子看護学実習		2
		学校保健学特論	2	
		学校保健学実践演習		2

	教職に関する科目	教育心理学特論		2
		教育課程行政特論		2
		教育学特論		2

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

看護学研究科では、ディプロマ・ポリシーで示した身につけるべき資質・能力を学生が習得できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成し実施する。

1. 共通科目は高度専門職業人の育成のために、幅広い学識の涵養と看護学の基礎的理論や研究方法について学ぶ科目を配置する。
2. 科学的根拠に裏づけられた論理的思考力を高めるための科目を配置する。
3. 母子看護学分野、成人看護学分野、看護管理学分野のそれぞれに、講義・演習・実習の科目を置き、実践能力を高める科目を配置する。
4. エビデンスに基づいた論理的思考力と課題解決に向けた実践力を高める科目を配置する。
5. 多様な異文化や価値観を理解し、看護実践のあらゆる場面において看護の理論と実践を結びつけて理解する能力、チームリーダーとして、連携・協働する能力を高める科目を配置する。
6. 専門分野の研究活動を通して知見を広げ、教員の指導のもとで論文を作成する看護学特別研究科目を配置する。

2. 教員の養成に係る組織及び教員の数、各教員が有する学位及び業績並びに各教員が担当する授業科目に関すること

■養護又は教職に関する科目

専任等の別	教授等の別	氏名	担当授業科目
専任	教授	渡邊 典子	看護研究法 母子看護学特論Ⅰ 母子看護学特論Ⅱ 母子看護学演習Ⅰ 母子看護学実習
専任	教授	中平 浩人	看護研究法
専任	教授	中村 恵子	看護教育学 学校保健学実践演習 教育心理学特論
専任	教授	柄澤 清美	看護教育学
専任	教授	菅原 真優美	看護倫理
専任	教授	塚原 加寿子	母子看護学実習 学校保健学特論 学校保健学実践演習
専任	教授	佐藤（中根） 薫	看護教育学
専任	教授	佐々木 祐子	ケアリング論
専任	准教授	小林 正子	母子看護学特論Ⅱ 母子看護学演習Ⅰ

			母子看護学実習
専任	准教授	桐原 更織	母子看護学特論Ⅲ 母子看護学演習Ⅰ 母子看護学実習
専任	准教授	久保田 美雪	母子看護学実習 母子看護学特論Ⅱ
専任	助教	藤野 清美	看護倫理
兼任	教授	本間 恵美子	看護心理学
兼任	教授	中野 啓明	ケアリング論 教育学特論
兼任	教授	秀村(真壁) あさみ	母子看護学特論Ⅲ
兼任	准教授	花澤 佳代	学校保健学特論
兼任	非常勤講師	本間 昭子	母子看護学特論Ⅰ 母子看護学特論Ⅲ 母子看護学演習Ⅱ
兼任	非常勤講師	斎藤 まさ子	看護研究法 母子看護学特論Ⅲ
兼任	非常勤講師	宮坂 道夫	看護倫理

3. 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組に関すること

実践的な教育活動

主体的により高度な実践力を学修できるよう、フィールドワークや実習を行っています。

1. 母子看護学演習Ⅰ

自己の研究課題に関わるフィールドにおいて、実践的アプローチを探求します。

2. 母子看護学実習

学校・地域の教育施設等で、理論・知識・技術などを統合し、より質の高い養護を提供できる実践能力を修得します。

3. 学校保健学実践演習

養護教諭の職務について、学校保健の立場から課題意識を持って分析し、保健管理、保健教育、ヘルスプロモーションなどについて課題を設定し改善策を検討します。